

10月度研究会 in 様似報告

事務局 吉田

行って来ました、ACE 北海道久々のマルチメディアキャラバン。今回は、かねてからお約束をして二回も延期してしまった小松先生のところ、日高管内様似町にお邪魔をいたしました。

10月25日当日、朝9時に道新を出発した高瀬号禁煙車(青柳・吉田)と武田号(荒島)は、途中で尾崎先生をピックアップして一路様似へと日高路をひた走りました。日高は高瀬先生のホームグラウンド(ってわけでもないか)勝手知ったる道のりを進むのですが、覚悟していたこととはいえ、遠い。少しずつ休みながらの道すがら、三石の道の駅で、「三石昆布焼酎」を発見してしまいました。さっそくGet!、夜は荒れそうな予感です。

無事到着し、準備をしていると、千歳から半澤先生合流。

様似側は小松先生と今回の会場、町立様似図書館の加藤さん、韓国は馬山との国際交流を中心に活躍されてる様似小学校の松本先生と、浦河町立野深小学校の佐藤先生が参加して下さいました。

進めたいということで、今後はインターネット利用を積極的に行っていきたいと話していました。



様似図書館。贈書は豊富でバランスも取れています。

町立様似図書館は平成4年7月にオープンした日高管内では初の独立した図書館で、様似町の駅や公共の体育施設に隣接し、6万冊近い贈書と豊富なAVコンテンツ、そして、100人収容の視聴覚ホールを擁しています。広い建物は、適度な高さの書架と「かくれんぼ」気分の出せるつくりになっていて、こども達がゆっくりと本やAVソフト、CD-ROMなどに接することが出来ます。

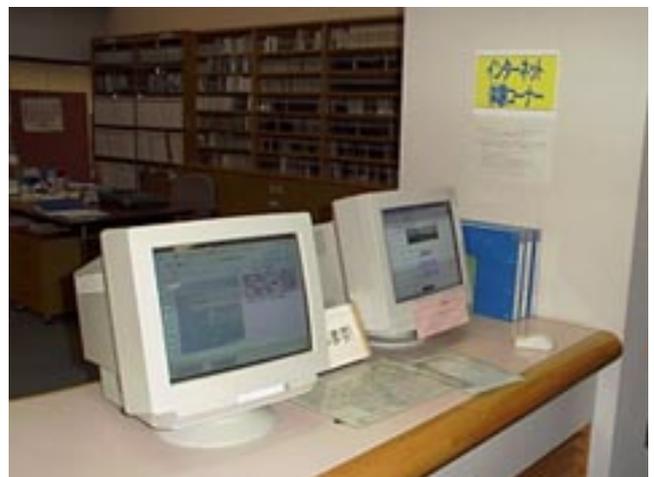
昨今新聞などで話題になったのは、パソコン通信を利用した贈書検索システムで、利用者が少ないという悩みはあるものの、近隣町村からの図書貸出に役立っています。また、北海道立図書館のネットワークとの連動により、60万冊近い贈書を検索して行くことが出来ます。道立図書館では移動図書館「あけぼの号」の活動が地域における図書普及活動を支えています。2台のバスだけでは地域をくまなく支えることは不可能です。やはり、地域にしっかりとした図書館があって、利用される雰囲気と環境を整えてある、ということが重要で、そのあたりを加藤さんも痛感されているようでした。



様似小松本先生(左)と野深小佐藤先生

冒頭、いつもの我々の活動の紹介のあとに、さっそく様似における活動を紹介してもらいました。小松先生のところは随分早くから「教室にコンピュータ」を実践しておられたところ。職場でのコンピュータ利用率も5割を超え、こども達と先生方を囲む環境も少しずつかわってきているようです。特筆すべきなのは、NTTのOCNダイヤルアップが近接市外局番の門別富川までアクセスポイントを開設していること。賛否両論あるでしょうが、これが使えることは地域のインターネット環境、特に日高のようにISPが立ち上がらなかったところでは大きな意味があると思います。まだまだ学校のホームページも「あくまでも個人で開設したもの」でしか実現していない状況ですが、先生方の熱意が将来的な様似におけるコンピュータ、ネットワークの教育環境を支えていくことでしょう。

また、様似小学校では韓国・釜山に程近い馬山(まさん)の小学校との二校間国際交流を既に10年近く続けて来ています。中心となって動いている松本先生は「何故様似なのか」北海道より九州のほうが近いのではないかとといった疑問点を掲げられながらも、せっかく生まれた交流を出来るだけ生かしていく方向で



WindowsNT 利用の検索システム

ちなみに、インターネットに常時接続できる環境はまだ構築さ

れてませんが、必要に応じて体験などもしてもらっているそうです。

そのほか、札幌組からはデジタル学校新聞、野生生物基金の新作CD-ROM、ゼンマイハグルマプロジェクトなど様々な活動を紹



まだ一次会だよん。

介させていただきました。

さて、夜はいつもの通り懇親会で爆発、今後に控えている北野台中にての発明工夫研究授業の話など、教育を熱く語りました。

小松先生に手配していただいたお宿は「旅館 親子岩」。

昨年放映していた(っていってもオレ知らないんだけど)ドラマ「ナチュラル～愛のゆくえ」で一躍有名になった親子岩を一望できる場所にあります。ですが、そんなこと全くお構いなしに、部屋でも爆発宴会モード。旅館の中には「携帯電話使用禁止」の張り紙もありましたが、お構いなしにチャットやらWebやらで盛り上がりました。三石昆布焼酎の旨いこと、折り紙付きです。

「よしだケータイもってこーい」

「何、チャットに入れないよ」

「こまつせんせいすごいねおれねかんどーしたよ」

「ねるぞー」

「はんちゃんあした六時に帰るの?」

「あーにほんしゅひっくりかえってる」

さて、翌日。

小松先生のおすすめでせっかくの機会なので襟裳岬まで足を延ばし、えりもの「風の館」を見学いたしました。今年6月に完成した施設で、中には風速30メートルを体験するコーナーや風をテーマにしたスライド、そしてQTVRを駆使したマルチメディアタイトルなど、今までの襟裳岬のイメージとはひと味違う展開の施設になっています。少なくとも「あのうた」は館内ではかかっていませんでした。

そして、戻りがてら今度は新冠町の「レ・コード館」に立ち寄り、ぐるりと施設を見学しました。レコードを中心に音の文化をアーカイブしていくという、なかなか画期的な施設です。武田先生は南佐織の「17才」を聞かせてもらって上機嫌。蓄積してあるレコードは非接触型のレーザー針を使用して聞くことが出来るため、音質劣化を極力避けることが出来るそうです。館内には図書室が併設されているほか、パソコン教室も備わっていました。ネットワーク接続されているかどうかは確認するすべがありませんでしたが.....。

そして、鶴川でシシャモ買って(うまかった~)厚真でACE北海道来年春の強化合宿の場所の下見をしてさらにジンギスカン買って帰ったわけです。

そういうわけで、飲み食いしに言ったわけではないのですが、

どうもそう見えてしまうのはこのメンバーの悲しさでしょうか?

小松先生、佐藤先生それでは12月の総会でお会いいたしましょう。お世話になりました!

関連URL

様似小学校

<http://www.oroppas.or.jp/OROPPAS/school/samani1/ses.html>

様似中学校

<http://www.oroppas.or.jp/OROPPAS/school/samani2/sjhs.html>

町立様似図書館

<http://www.hokkai.or.jp/samani/library.htm>

襟裳岬風の館

<http://www.ntt-tomakomai.com/erimo/kaze.html>

新冠レ・コード館

<http://nets.toppan.co.jp/hokkaido/ganba/niiappu/>

<http://www.hokkai.or.jp/niiappu/re.html>

デジタル学校新聞プロジェクト - 5

「第41回 全道高等学校 新聞研究大会の報告」

札幌星園高校 高瀬敏樹

(takase@netfarm.or.jp)

10月7日から9日までの3日間、おもに「かでの2・7」を会場に北海道高等学校文化連盟・北海道教育委員会主催の上記研究会が開催されました。参加校数82校、参加人数約483名という大規模な大会なのですが、最盛期には何と1,200名ほどの参加者がいたそうです。今回は、DTPによる大会速報と分科会をお手伝いさせていただきました。ACE北海道からは私と武田支部長、青柳事務局長、吉田編集長が参加しました。

大会速報について

例年は、手書きまたはワープロを活用した大会速報を、期間中に何十号と発行していたそうです。今回は出来るだけ分科会を充実させることを目的に、速報に関しては少数精鋭(人数、発行号数とも)で行こうということとなり、パソコンを活用して発行することになりました。旭丘の辻下君、南山君、道工の碓井君の3人が編集長となり、記者を含めた6~7人(他の仕事とかけ持ちの生徒も含む)のチームで計画的に発行しました。啓成高校新聞局顧問秋田先生の指導のもと、内容、レイアウトとも充実した速報を3日間で10号(手書きも含む)ほど発行し、タイミング良く



夜通し速報。黒マック活躍

配布できました。使用した機材は以下の通りです。

編集用パソコン Mac 3 (3)、PC98 (1)

記事入力用パソコン PowerBook (1)、98note (1)
ネットワークプリンタ able (1)、デジタルカメラ (3)

分科会「DTP新聞を作る」について

大会2日目の分科会は、「現代の高校生をとりまく問題について考えよう」など、テーマ別に九つの会場に分かれて実施されました。DTP新聞を作ってみようという分科会は、今回が初めてです。この分科会のみ、機器の都合で本校のパソコン実習室を会場に行いました。参加者は32名。北星学園女子短期大学の武田先生から「DTP新聞とは何か」をテーマとして、主にデジタル学校新聞の可能性について講義していただきました。昼食後、簡単な説明の後、3人を1グループにして、A4版1面の新聞の制作開始です。事前に記事と写真は用意してもらっていたのですが、試行錯誤しつつも3時間ほどで組上がりました。「学校に戻ったらDTPで新聞を作ってみます。」と宣言していた男子生徒2名は勿論のこと、多くの学校でデジタル学校新聞が発行されることを期待



会場は星園高校パソコン実習室。すごい設備。

したいと思います。

全面的な御協力をいただいた武田支部長、機材の提供やサポート等で協力してくださった、FUJI XEROXさん、北海道新聞社情報開発本部のみなさんに深く感謝いたします。

修学旅行モバイルレポート & 玉川学園訪問記

札幌新川高校 教諭 吉岡 隆
yoshioka@shinkawa-hs.kita.sapporo.jp

10月18日～22日まで本校見学旅行(修学旅行)の引率で関西、岡山方面へ行ってきました。主な旅行日程は、18日奈良、19日奈良、京都、大阪グループ自主研修、20日岡山、広島グループ自主研修、21日東京グループ自主研修となりました。私の役割はこの自主研修の計画とまとめであったことから、NTT西山さんに5月に岡山県のこねっとプラン参加校、岡山県立精研高校を紹介していただき、フェニックスやE-mailを使った事前学習交流を行ってきました。

生徒のグループ自主研修の間、本部に待機する教員、各地を巡視する教員、生徒間の緊急連絡として携帯電話が活躍したことは言うまでもなく、DoCoMo-ACEモバイルキットでWebNoteClipを使った学校およびPTAへの報告を行うことができました。第2

弾として11月8日から本校定時制も見学旅行レポートをアップする予定です。(http://www.shinkawa-hs.kita.sapporo.jp/nc/clip/index.html)

さて、21日の東京半日自主研修で「ボトルメールforバーチャル雪まつり」の開発を担当して下さっているリクルートメディアデザインセンターとボトルメールの紹介を兼ねて玉川学園を訪問してきました。

「ボトルメールforバーチャル雪まつり」は旅行2日前にリリースされたばかりですが、昨日から本校でも利用をはじめ、2日間で約100通の発信を行っています。ボトルメールのインターフェースは非常にシンプルかつ楽しいもので、生徒の感心も非常に高く、さらに参加校が増えて欲しいと願っています。

「ボトルメールforバーチャル雪まつり」はhttp://www.netfarm.or.jp/shinkawa/snowfes/から無料でダウンロードすることができます。(ID、passwordが設定されていますので、ご希望の場合はb-ml-info@skr.or.jpにご連絡ください。)

玉川学園では、清水先生と多賀先生、小学部青野先生が玉川学園のネットワークの概要および展望について教室を見学させていただきながら説明をしていただきました。1994年(私がMacキャラバンでACEに入信し、蝦名さんから8100/80AVを購入した年です。)の夏、「Our Trees Project」という環境問題についての共同学習に参加しないかという誘いがサンノゼのHarker Schoolからあり小学部の青野先生達が訪米して、WWWやE-mail、FTPまでつぶさに学んできたそうです。(http://www.edt.tamagawa.ac.jp/japanese/jissen.html)

そこから小学部のネットワーク構築がはじまり、保護者や中学部、高等部までそのネットワークを広げつつある訳ですが、誰かがやるのではなく、学園長自らネットワークを率先して活用し、ペーパーレスな電子コミュニケーションを活用している様子は、私達が今やっとめざしはじめたものをもうすでに実現しつつある



清水先生@アーツネットセンター。放送局の人みたいだ。

ことに大変共感をしました。

特に印象的であったのは、ログハウス風で広いオープンスペースのある小学部の校舎で、いたるところにLANやMacのある風景とフェニックス以前にISDNのテレビ会議を使っていた点です。(ただし、国際電話の料金と保護者が家庭から参加できない点については悩んでいられるようでしたので、COFTのRealPlyerについてお話をしました。)

玉川学園のネットワークはFitstClassを使っています。もちろん校内においてはLANでの使用ですので、10MGの線でつなぎ放

題です。家庭からはISPを通して、TCP/IPを使って接続していますが、小学部の生徒が上級部へ進級するにつれ、ネットワークを拡大して欲しいという家庭からの要望が強いそうです。

いつもインターネットばかり目をむけてばかりいましたが、本当に学校で必要なことはイントラネットなのではないか、「少しでも不安があれば、外にはつながらない。」という青野先生の言葉が印象に残った訪問になりました。

デジテラ いよいよ始動！

事務局 吉田

旭川の地で今、新しい動きが起きています。亀吉倶楽部でお馴染みのデジタルリソースの松澤 衛さんをはじめとする面々が、旭川は亀吉の地にデジタルの寺子屋「デジテラ」を作ろうとしています。以下は、デジテラの主旨文です。

寺子屋は、コンピュータ&ネットワークを自分の道具の様に動かす事が出来るように、情報交換を行い、レベルを高めるために、人が集まれる場と人的なネットワークを構築します。

寺子屋は、共同作業のテーマを発掘して、実際に取り組み、活動を形にしながら進めていきます。寺子屋は、旭川にいる人材を発掘し旭川をデジタル文化の発信地にしていきます。

札幌にネットワークプラザ「oroppas」ができ、苫小牧のNTTが



「デジテラ」予定地。喫茶店みたいでしょ。実はそうなのさ。

「TOMAP」をオープンさせたという流れの中で、旭川にもネットワークの交流の「場」が欲しい、ということから最初の話は始まっています。そして、今まで3回の会議とオンラインでの討議を重ねていく中で、せっかくだから前に出来た二つとは毛色の違った場にしたいという話になってきました。

「寺子屋」というネーミングからお察しの通り、たとえば松澤さんの専門のCGやPhotoShopのセミナーなどを行ったり、入り浸ってWebデザインの腕を磨いたり、ネットワークの知識を身につけたり...。そんな場所にしたいという熱意をもって準備中です。年内には何とかオープンにこぎ着け、華々しいイベントで祝いたいと考えています。

第4回の「デジテラ」設立会議は11月8日(土)に、旭川亀吉のデジテラ開設予定地で行われます。デジテラの詳細については亀吉倶楽部のホームページ(<http://www.kamekichi.co.jp/>)をご覧ください。

旭川・近郊の教育関係の方々、ここは注目ですよ。

札幌東地区事業「インターネットの活用法」開催

事務局 青柳

10月28日、札幌市教育研究協議会の東地区事業「インターネットの活用法」が、札幌市東区の小中学校の先生を対象に、札幌市ネットワークプラザで行われました。



ネットワークプラザにて。今井さんにも手伝っていただきました。ありがとうございます。

ACE会員の札幌開成小・加藤先生のご紹介で、支部からアトリエアイリス・水越先生、事務局・青柳、吉田の3名が「先生の先生」として派遣依頼をいただきました。内容は、前半是水越先生からインターネットの基礎(ブラウザの使い方、検索の仕方、メールのやりとりの方法など)を話していただき、後半は実際にホームページをあちこち見てみる、というものです。

東地区事務局の先生のお話では、地区の小中学校ではインターネット環境がほとんど無く、教職員の間で「インターネットにかかわる研修」を望む声が多く聞かれたための開催となったそうです。そのお話のとおり、通常は10名も参加があれば多いそうですが、30名近い先生が集まりました。

ネットワークプラザに常設の5台ほどのパソコンと、道新から持ち込んだ6台すべてからインターネット接続できる状態にしていたのですが、水越先生の説明の最中から参加の先生方は既にいじってみたくてしょうがない、といった様子で、実習時間に入ると堰を切ったように夢中で取り組んでいました。先生方の年齢層は20代から上は50代までと見受けられ、特に年輩の先生が非常に詳しい知識をお持ちで、突っ込んだ質問をされていたのが印象的でした。また、女性が10名ほどいらっしまったのも、教員の比率からすると高いのでは、と思いました。

2時間の枠はあっという間に終了し、解散となりましたが、「インターネットを授業に活用、といっても、見たこともさわったこともなければ活用プランもつかない。今は何にも無いけど、来るときは一斉に導入されるでしょう。それから考えても遅いしね」という感想をおっしゃる先生がいました。御意。札幌では、来年6月あたりに全市対象の講習会を予定しているというお話に、反射的にご協力を約束してしまいました。またまたイベント増やしてしまいましたが、会員のみなさま、よろしくね。

第 18 回北海道発明工夫教育研究大会 北野台中学校 10 周年記念研究会 開催のご案内

北海道発明工夫教育連盟では、札幌市立北野台中学校 10 周年記念とあわせ第 18 回北海道発明工夫教育研究大会を開催することになりました。札幌市、北海道の青少年の創意工夫の心を育成し、高度情報社会における教育の在り方と創意工夫との関連について研修を深めることをねらいとしています。

大会テーマ「児童・生徒の創意工夫を育てる教育実践の在り方」

大会期日：平成 9 年 1 月 21 日 金曜日

会場：札幌市立北野台中学校（公開授業・研究討議）

札幌市豊平区北野 4 条 4 丁目 1 3 - 1 電話 0 1 1 - 8 8 2 - 7 9 1 5

主催：北海道発明工夫教育連盟

後援：北海道教育委員会・札幌市教育委員会・北海道小学校長会・北海道中学校長会・札幌市小学校長会・札幌市中学校長会・社団法人発明協会・北海道発明協会連合会・北海道発明工夫教育連盟後援会

テーマ：児童・生徒の創意工夫を育てる教育実践の在り方

公開授業

- ・生徒：札幌市立北野台中学校 1 年 3 組
 - ・授業者：札幌市立北野台中学校 尾崎廉教諭
 - ・内容：インターネット、テレビ会議、マルチメディア活用
 - ・教室：コンピュータ室、多目的室、音楽室 1、2
 - ・協力者：全国の協力頂ける学校、大学や研究施設、市民団体
- 研究討議
- ・会場：多目的室
 - ・内容：創意工夫を育てる教育実践

申込方法

支庁名、学校名、氏名、大会参加、懇親会参加を明記して、大会事務局まで申し込んでください。

（大会事務局）

064 札幌市中央区南 1 1 上西 1 0 丁目 札幌市立曙小学校

柴田洋明 電話 011 - 511 - 0124 / FAX 011 - 511 - 0125

参加費 3,000 円(研究紀要がもらえます)/ 懇親会費 5,250 円

研究授業計画

（この授業の目的）

高度情報通信社会の時代を迎え、今後、学校にもインターネットの世界につながる環境が整備されていくことが予想される。本校では「こねっとプラン」に参加し、ISDN 回線が整備されインターネットへの接続が可能になった。

この 1 年間各種実験を繰り返し、授業での活用を考えてきたが、今回、1 年生の「情報基礎領域」での扱いとして実験的にこの授業を計画してみた。

また、「家庭生活領域」での「家族や地域の人々とのかかわり」、地域の生活環境を快適にしよう」という単元との関連を持たせ、環境問題をテーマに授業を進めることにした。

さらに、今回ネットワーク社会を通じて出会うことのできた、こねっとぶらん .ace 北海道 . ネットワークコミュニティフォーラム 9 7 (N C F 9 7)、H E M L の各団体の人々に呼びかけを

し、将来の学校で行われるであろう、ネットワークを通じて知り合った一般市民と生徒との交流を想定して、授業を構成してみた。

「開かれた学校に、それぞれの技術や能力を持つ善良な一般市民が参加し協力し合って創造性豊かな子供を育てる事が可能である」という仮説の検証もこの授業の目的としたい。継続的に、学校教育にそれぞれの分野の専門家が参加し、地域社会を含め幅広い人々の支援を受け「学校が」「子どもたちが」育っていく。そんな姿を 21 世紀の教育で実現したいと考え続け、夢と希望をふくらませながら生徒たちとともに我々教職員も学ぶ姿勢を現実の学校教育に活かしていきたいと考える。

詳細については下記 URL をご参照下さい。

<http://www.ncf.or.jp/wg/education/hatsumei/hatsumei.html>

NCF 教育フォーラム「明日の教育を考える in 札幌」

NASACOTF(Classroom of the Future)未来の教室プロジェクトとのテレビ会議及びシンポジウムを下記のとおり行います。

次の日はお休みだし、皆さんたくさん来てくださいね。

記

日時：1997 年 11 月 22 日(土)午前 9 時から 12 時

場所：ネットワークプラザ

札幌市中央区北 2 条西 3 丁目第百生命ビル 5 F

プログラム：

- 1 . 9:00 ~ 10:00 : C O T F 視察報告
- 2 . ミラー博士のプレゼン + 質疑応答
内容：テーマ「明日の教育ネットワークを考える」：ミラー博士
時間：30 分間(10:00 ~ 10:30)
通訳：SEA 吉田先生
方式：
1) プレゼンは会場間は H.320 (phoenix)、同時にその様子は RealPlayer で見ることが可能
2) 質疑応答は札幌、COTF それぞれがそれぞれの映像をそれぞれのサーバにキャプチャし相手方の映像は RealPlayer で見る。
3) 会場に来れない人はインターネット上で RealPlayer を使って見る。2 つの会場は自分で切り替える。

3 . パネルディスカッション

内容：テーマ「明日の教育ネットワークを考える」

時間：1 時間 (10:30 ~ 12:00)

コーディネータ：武田先生

パネラー：乞う御期待！

方式：(COTF 参加の場合)

- 1) 通訳を SEA 吉田先生
- 2) 札幌、COTF それぞれがそれぞれの映像をそれぞれのサーバにキャプチャし相手方の映像は RealPlayer で見る。
- 3) 会場に来れない人はインターネット上で RealPlayer を使って見る。2 つの会場は自分で切り替える。

関連 URL

道都大学短期大学部 野口先生の COTF 視察記

<http://www.netfarm.or.jp/nogu/inspection/menu.html>

1997年度第4回支部 定期総会のお知らせ！

1997年度第4回ACE北海道支部定期総会・教育研究会を、下記の日程で行います。皆様多数の参加をお願い申し上げます。

記

日時：1997年12月13日（土）14:00～
14日（日）12:00まで（一泊二日）

会場：北海道青少年会館（予定）
札幌市南区真駒内柏が丘 電話011-581-1141

内容：

（13日）

14:00～17:00 研究会（内容は次号にて）

17:00～19:00 入浴、夕食

19:00～20:00 総会

（97年度活動報告・会計報告、98年度活動計画・活動予算案、役員選）

20:00～ 懇親会

（14日）

水泳・卓球・剣道ほかスポーツをたしなみ、解散

費用：宿泊費2900円、夕食1500円、朝食700円

（2段ベット、6人部屋 う～ん、ACEらしい！）

参加希望の方は、事務局までメールまたはお電話で。

（aoyagi@hokkaido-np.co.jp、011-210-5506）

施設の空き状況の関係で、先着20名までです！！

研究会発表、活動報告を募集しています！

野生生物基金 CD-ROM 「シマフクロウ」完成！

ご好評いただいています(?)CD-ROM、「北海道の野生生物」の第二弾「～シマフクロウ～」が完成いたしました。写真は山本純朗さん、音楽は宮崎 亮さんという構成です。Mac、Win95、Win3.1のハイブリッドになっています。定価2,000円（税込）のところ、ACE北海道特別価格1,500円とさせていただきます。皆様、美しいシマフクロウの四季をマルチメディアタイトルで楽しんで見ませんか？コンサドーレも「にいくことだし。お問い合わせはACE事務局青柳(aoyagi@hokkaido-np.co.jp)または吉田(yoshida@hokkaido-np.co.jp)まで。宜しくお願いします。

編集後記

様似へ行きました。

私は久々にあの図書館をみて元気になりました。図書館はそれを作る人の人柄が出ますよね。ああいうところが増えてくともそこに群がるようになるといいなと思います。でも、加藤さんやっぱライトアップよりインターネット常時接続ですよ。絶対。（吉田）

みなさんこんにちは！札幌音楽専門学院の見澤です。今日もまたACEレター編集会議に遊びに来ています。最近では本学院内でもコンピュータのLAN化が進みつつあり、授業でもACE-net・インターネット等が、今まで以上に活用できる！日も近いと思ってます。

最近では忙しくて、研究会にもなかなか顔を出せない日々が続いていますが、総会には参加したいと思いますので、また、みなさんとお会いできるのを楽しみにしていますね。（と言ってもまだまだ先ですが。。）

12月8日には学内演奏会もあるので、みなさんお誘い合わせの上いらっしゃってくださいな。

詳細はお電話で、011-261-6131札幌音楽専門学院までどうぞ！よろしくおねがいします。（見澤）

ひさしぶりの遠征研究会にはしゃぎすぎて、様似では夜中に道新のおじさんに尾崎先生と一緒にいたずら携帯かけたり、チャットボードでなりすましたりしてしまいました。すみせん。でも様似では熱心な小学校の先生や図書館主査の方にも会えたり、札幌の東区の先生達のやる気に刺激されたりして、まだまだ会えていない人がいっぱいいるな、とつくづく思っています。みなさん、もっといろんな人を連れてきて下さい。お待ちしておりますわ。（青柳）

マラソン大会、学校祭、各種研究大会、見学旅行などなど、行事の秋もようやく終わりが見えてきました。雪が積もれば楽しい冬です。まず、机の上の山積みを片付けなくっちゃ。

（高瀬）

来月、未来の「開かれた学校」を想定した研究授業が行われる。発明工夫のセンスは、教師自身が持っていなければならないし、そんな教師とつきあっている子供の心のなかにうまれてくる。僕たちの毎日の生活にはどれだけの感動や創意工夫があるだろうか？日々惰性で過ごす毎日の生活の中で、子供たちに自慢できる一瞬の輝きを見つめるために、今一度、子供の悪戯心を取り戻すことから始めたいと思う。でなければ、いったいどんな顔をして、子供たちの前に立てるといえるのか？！自分が一歩踏み出すことから教育は変わっていくのだから。

（武田）



おそろべしこんぶ焼酎！